

ソーシャルワーク実習指導

《履修上の留意事項》1. ソーシャルワーク実習 を履修する学生は、必ず履修すること。

2. 4年次にソーシャルワーク実習 を履修する学生は、3年次にソーシャルワーク実習指導の単位修得済みでも当該科目を受講(聴講)すること。

《担当者名》 巻 康弘 maki@hoku-iryo-u.ac.jp ○片山 寛信 高橋 亮 福間 麻紀 宮本 雅央 近藤 尚也
(主担当者、○副担当者)

【概要】

ソーシャルワーク実習 (180時間以上)に向けた、ソーシャルワーク実習・実習指導 と連動した実習指導科目である。講義・演習で習得した学びを、ソーシャルワーク実習 の実習施設等と「異なる機能」を有する施設・機関で行うソーシャルワーク実習での実習体験とつなげ、ソーシャルワーク専門職としての社会福祉士として必要となる価値・知識・技術を体系的に習得することを旨とする。北海道ブロックの「実習教育・指導に関する指針」に基づき、事前教育、訪問指導、事後教育の各段階に分けて、全体指導とグループ指導の形態で展開する。

【学修目標】

ソーシャルワーク実習指導の学習目標は、ソーシャルワーク実習の学習目標と連動する。ソーシャルワーク実習と実習指導を通じ、日本ソーシャルワーク教育学校連盟北海道ブロックにおいて標準化した統一の実習評価表に基づく以下の点の獲得に向け、実習分野・施設機関、利用者、地域社会等、ソーシャルワークの価値規範と倫理・知識及び技術の説明ができることなどが目指される。

利用者やその関係者(家族・親族、友人等)、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係を形成できる。

利用者やその関係者(家族・親族、友人等)との援助関係を形成することができる。

利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題(ニーズ)の把握、支援計画の作成と実施及び評価ができる。

利用者やその関係者(家族・親族、友人等)への権利擁護活動とその評価ができる。

多職種連携及びチームアプローチの実践的理解ができる。

当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけの現状が説明できる。

地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発ができる能力を育てる。

施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際(チームマネジメントや人材管理の理解を含む)を説明できる。社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任を遂行することができる。

ソーシャルワーク実践に求められる技術を実践的に理解することができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
補講	編入生オリエンテーション	(編入3年生の履修希望学生対象) ・ソーシャルワーク実習のオリエンテーション	巻、片山
1	オリエンテーション クライアントの生活上の課題(ニーズ)とソーシャルワーカーの役割	・年間計画を説明できる。 ・実習契約の概要を確認することができる。 ・実習教育目標(達成目標・行動目標)が説明できる。 ・実習計画書の項目と記載内容が説明できる。 ・実習経験での生活課題・地域課題を例示できる。	巻、片山
2 { 4	クライアントの生活上の課題(ニーズ)とソーシャルワーカーの役割 ・ ・ (Aクラス)	・文献・資料や事前訪問等により実習で想定されるクライアントの生活上の課題(ニーズ)とソーシャルワークの実践課題・方法について説明ができる。	巻
	クライアントの生活上の課題(ニーズ)とソーシャルワーカーの役割 ・ ・ (Bクラス)	・文献・資料や事前訪問等により実習で想定されるクライアントの生活上の課題(ニーズ)とソーシャルワークの実践課題・方法について説明ができる。	片山, 高橋亮
	クライアントの生活上の課題(ニーズ)とソーシャルワーカーの役割 ・ ・ (Cクラス)	・文献・資料や事前訪問等により実習で想定されるクライアントの生活上の課題(ニーズ)とソーシャルワークの実践課題・方法について説明ができる。	福間
	クライアントの生活上の課題(ニーズ)とソーシャルワーカーの役割 ・ ・ (Dクラス)	・文献・資料や事前訪問等により実習で想定されるクライアントの生活上の課題(ニーズ)とソーシャルワークの実践課題・方法について説明ができる。	宮本
	クライアントの生活上の課題(ニーズ)とソーシャルワーカーの役割 ・ ・ (Eクラス)	・文献・資料や事前訪問等により実習で想定されるクライアントの生活上の課題(ニーズ)とソーシャルワークの実践課題・方法について説明ができる。	近藤

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
5	社会福祉士OSCEの説明	社会福祉士OSCE（客観的臨床能力試験）について説明できる。 ・OSCEの概要とスケジュールが説明できる。 ・試験項目（インテーク面接）の説明ができる。 ・試験項目（アセスメント報告）の説明ができる。 ・試験項目（実習日誌記載・提出）の説明ができる。	巻、片山
6	地域社会等に関する基本的な理解と所在する多様な施設・事業所の理解 (Aクラス)	・地域アセスメントワークシートをもとに、地域アセスメント結果を説明することができる。 ・資料、インターネット、体験学習などを通じ、地域に所在する多様な施設・事業所の機能や役割について説明できる。 ・SWOT分析の方法について説明できる。	巻
	地域社会等に関する基本的な理解と所在する多様な施設・事業所の理解 (Bクラス)	・地域アセスメントワークシートをもとに、地域アセスメント結果を説明することができる。 ・資料、インターネット、体験学習などを通じ、地域に所在する多様な施設・事業所の機能や役割について説明できる。 ・SWOT分析の方法について説明できる。	片山、高橋亮
	地域社会等に関する基本的な理解と所在する多様な施設・事業所の理解 (Cクラス)	・地域アセスメントワークシートをもとに、地域アセスメント結果を説明することができる。 ・資料、インターネット、体験学習などを通じ、地域に所在する多様な施設・事業所の機能や役割について説明できる。 ・SWOT分析の方法について説明できる。	福間
	地域社会等に関する基本的な理解と所在する多様な施設・事業所の理解 (Dクラス)	・地域アセスメントワークシートをもとに、地域アセスメント結果を説明することができる。 ・資料、インターネット、体験学習などを通じ、地域に所在する多様な施設・事業所の機能や役割について説明できる。 ・SWOT分析の方法について説明できる。	宮本
	地域社会等に関する基本的な理解と所在する多様な施設・事業所の理解 (Eクラス)	・地域アセスメントワークシートをもとに、地域アセスメント結果を説明することができる。 ・資料、インターネット、体験学習などを通じ、地域に所在する多様な施設・事業所の機能や役割について説明できる。 ・SWOT分析の方法について説明できる。	近藤
7	実習施設における多職種連携及びチームアプローチ (Aクラス)	・文献や資料等により、実習施設・機関における他職種の機能と役割、多職種連携及びチームアプローチについて説明できる。	巻
	実習施設における多職種連携及びチームアプローチ (Bクラス)	・文献や資料等により、実習施設・機関における他職種の機能と役割、多職種連携及びチームアプローチについて説明できる。	片山、高橋亮
	実習施設における多職種連携及びチームアプローチ (Cクラス)	・文献や資料等により、実習施設・機関における他職種の機能と役割、多職種連携及びチームアプローチについて説明できる。	福間
	実習施設における多職種連携及びチームアプローチ (Dクラス)	・文献や資料等により、実習施設・機関における他職種の機能と役割、多職種連携及びチームアプローチについて説明できる。	宮本
	実習施設における多職種連携及びチームアプローチ (Eクラス)	・文献や資料等により、実習施設・機関における他職種の機能と役割、多職種連携及びチームアプローチについて説明できる。	近藤
(補講)	CBT再チャレンジの説明	・CBT(知識試験)の目的と出題範囲の説明ができる。 (ケア・マネジメントコース該当学生向け)	近藤、宮本
8	社会福祉士OSCE	社会福祉士OSCE（客観的臨床能力試験）。	巻、片山、橋本、福間、宮本、奥田、池森、近藤、高橋由、鈴木
9	実習計画書の作成指導 ・ (Aクラ	・実習分野で必要となる知識を踏まえた実習生自身の	巻

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
10	ス)	問題意識を示すことができる。 ・実習施設・機関等の役割について説明できる。 ・中間報告会のスケジュール等が説明できる。	
	実習計画書の作成指導 ・ (Bクラス)	・実習分野で必要となる知識を踏まえた実習生自身の問題意識を示すことができる。 ・実習施設・機関等の役割について説明できる。 ・中間報告会のスケジュール等が説明できる。	片山、高橋亮
	実習計画書の作成指導 ・ (Cクラス)	・実習分野で必要となる知識を踏まえた実習生自身の問題意識を示すことができる。 ・実習施設・機関等の役割について説明できる。 ・中間報告会のスケジュール等が説明できる。	福間
	実習計画書の作成指導 ・ (Dクラス)	・実習分野で必要となる知識を踏まえた実習生自身の問題意識を示すことができる。 ・実習施設・機関等の役割について説明できる。 ・中間報告会のスケジュール等が説明できる。	宮本
	実習計画書の作成指導 ・ (Eクラス)	・実習分野で必要となる知識を踏まえた実習生自身の問題意識を示すことができる。 ・実習施設・機関等の役割について説明できる。 ・中間報告会のスケジュール等が説明できる。	近藤
補講	OSCE再試験	不合格者、未受験者の追再試験。	巻、片山、福間、宮本、近藤
11	ソーシャルワーク実習中間打合せ会 (Aクラス)	○ソーシャルワーク実習 と実習 の実習指導者と教員、学生で行う。 ・実習計画書を実習指導者に説明できる。 ・実習スーパーバイザーの役割を果たすことができる。 ・実習における留意事項が説明できる。	巻
	ソーシャルワーク実習中間打合せ会 (Bクラス)	○ソーシャルワーク実習 と実習 の実習指導者と教員、学生で行う。 ・実習計画書を実習指導者に説明できる。 ・実習スーパーバイザーの役割を果たすことができる。 ・実習における留意事項が説明できる。	片山、高橋亮
	ソーシャルワーク実習中間打合せ会 (Cクラス)	○ソーシャルワーク実習 と実習 の実習指導者と教員、学生で行う。 ・実習計画書を実習指導者に説明できる。 ・実習スーパーバイザーの役割を果たすことができる。 ・実習における留意事項が説明できる。	福間
	ソーシャルワーク実習中間打合せ会 (Dクラス)	○ソーシャルワーク実習 と実習 の実習指導者と教員、学生で行う。 ・実習計画書を実習指導者に説明できる。 ・実習スーパーバイザーの役割を果たすことができる。 ・実習における留意事項が説明できる。	宮本
	ソーシャルワーク実習中間打合せ会 (Eクラス)	○ソーシャルワーク実習 と実習 の実習指導者と教員、学生で行う。 ・実習計画書を実習指導者に説明できる。 ・実習スーパーバイザーの役割を果たすことができる。 ・実習における留意事項が説明できる。	近藤
12	事例研究(個別援助の理解、地域福祉研究)の理解(Aクラス)	・事例研究(個別援助の理解、地域福祉研究の理解)の位置づけ、項目と記載方法が説明できる。	巻
	事例研究(個別援助の理解、地域福祉研究)の理解(Bクラス)	・事例研究(個別援助の理解、地域福祉研究の理解)の位置づけ、項目と記載方法が説明できる。	片山、高橋亮
	事例研究(個別援助の理解、地域福祉研究)の理解(Cクラス)	・事例研究(個別援助の理解、地域福祉研究の理解)の位置づけ、項目と記載方法が説明できる。	福間

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	事例研究(個別援助の理解、地域福祉研究)の理解(Dクラス)	・事例研究(個別援助の理解、地域福祉研究の理解)の位置づけ、項目と記載方法が説明できる。	宮本
	事例研究(個別援助の理解、地域福祉研究)の理解(Eクラス)	・事例研究(個別援助の理解、地域福祉研究の理解)の位置づけ、項目と記載方法が説明できる。	近藤
13	実習施設・機関における権利擁護活動(Aクラス)	・文献・資料や事前訪問等により、実習で想定される利用者やその関係者(家族・親族、友人等)への権利擁護活動を調べ説明することができる。	巻
	実習施設・機関における権利擁護活動(Bクラス)	・文献・資料や事前訪問等により、実習で想定される利用者やその関係者(家族・親族、友人等)への権利擁護活動を調べ説明することができる。	片山、高橋亮
	実習施設・機関における権利擁護活動(Cクラス)	・文献・資料や事前訪問等により、実習で想定される利用者やその関係者(家族・親族、友人等)への権利擁護活動を調べ説明することができる。	福岡
	実習施設・機関における権利擁護活動(Dクラス)	・文献・資料や事前訪問等により、実習で想定される利用者やその関係者(家族・親族、友人等)への権利擁護活動を調べ説明することができる。	宮本
	実習施設・機関における権利擁護活動(Eクラス)	・文献・資料や事前訪問等により、実習で想定される利用者やその関係者(家族・親族、友人等)への権利擁護活動を調べ説明することができる。	近藤
14	多様な施設・機関における現場体験学習・見学実習(Aクラス)	・地域資源からヒアリングすることができる。 ・個別支援に加え、当該地域での生活上のニーズを持つ住民への対応の視点から伺うことができる。 ・ヒアリング対象者が捉える地域課題について伺うことができる。	巻
	多様な施設・機関における現場体験学習・見学実習(Bクラス)	・地域資源からヒアリングすることができる。 ・個別支援に加え、当該地域での生活上のニーズを持つ住民への対応の視点から伺うことができる。 ・ヒアリング対象者が捉える地域課題について伺うことができる。	片山、高橋亮
	多様な施設・機関における現場体験学習・見学実習(Cクラス)	・地域資源からヒアリングすることができる。 ・個別支援に加え、当該地域での生活上のニーズを持つ住民への対応の視点から伺うことができる。 ・ヒアリング対象者が捉える地域課題について伺うことができる。	福岡
	多様な施設・機関における現場体験学習・見学実習(Dクラス)	・地域資源からヒアリングすることができる。 ・個別支援に加え、当該地域での生活上のニーズを持つ住民への対応の視点から伺うことができる。 ・ヒアリング対象者が捉える地域課題について伺うことができる。	宮本
	多様な施設・機関における現場体験学習・見学実習(Eクラス)	・地域資源からヒアリングすることができる。 ・個別支援に加え、当該地域での生活上のニーズを持つ住民への対応の視点から伺うことができる。 ・ヒアリング対象者が捉える地域課題について伺うことができる。	近藤
	(事前訪問・事前連絡)	・夏期休業中に事前訪問又は事前連絡を行う。 ・事前訪問での実習計画書の(再)指導、実習プログラム確認や必要な打合せ等を行い本実習に備える。 ・事前学習を行い、実習計画書を完成させる。	
15	事例研究と実習日誌(Aクラス)	・実習施設・機関への事前訪問の共有ができる。 ・実習での留意事項が説明できる。 ・実習日誌・訪問指導記録、出勤簿、プロセスレコード等の書き方が説明できる。 ・実習展開と事例研究を関連付けて説明できる。 ・訪問・帰校日指導スケジュールが説明できる。	巻
	事例研究と実習日誌(Bクラス)	・実習施設・機関への事前訪問の共有ができる。 ・実習での留意事項が説明できる。	片山、高橋亮

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		<ul style="list-style-type: none"> ・実習日誌・訪問指導記録、出勤簿、プロセスレコード等の書き方が説明できる。 ・実習展開と事例研究を関連付けて説明できる。 ・訪問・帰校日指導スケジュールが説明できる。 	
	事例研究と実習日誌(Cクラス)	<ul style="list-style-type: none"> ・実習施設・機関への事前訪問の共有ができる。 ・実習での留意事項が説明できる。 ・実習日誌・訪問指導記録、出勤簿、プロセスレコード等の書き方が説明できる。 ・実習展開と事例研究を関連付けて説明できる。 ・訪問・帰校日指導スケジュールが説明できる。 	福岡
	事例研究と実習日誌(Dクラス)	<ul style="list-style-type: none"> ・実習施設・機関への事前訪問の共有ができる。 ・実習での留意事項が説明できる。 ・実習日誌・訪問指導記録、出勤簿、プロセスレコード等の書き方が説明できる。 ・実習展開と事例研究を関連付けて説明できる。 ・訪問・帰校日指導スケジュールが説明できる。 	宮本
	事例研究と実習日誌(Eクラス)	<ul style="list-style-type: none"> ・実習施設・機関への事前訪問の共有ができる。 ・実習での留意事項が説明できる。 ・実習日誌・訪問指導記録、出勤簿、プロセスレコード等の書き方が説明できる。 ・実習展開と事例研究を関連付けて説明できる。 ・訪問・帰校日指導スケジュールが説明できる。 	近藤
16	多様な施設・機関における現場体験学習の共有(Aクラス)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケア演習プログラムでの地区踏査・ヒアリングを踏まえて作成した資料をもとに説明することができる。 ・自らの実習で地域特性を把握する上で、他の学生の取り組みを参照することができる。 	巻
	多様な施設・機関における現場体験学習の共有(Bクラス)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケア演習プログラムでの地区踏査・ヒアリングを踏まえて作成した資料をもとに説明することができる。 ・自らの実習で地域特性を把握する上で、他の学生の取り組みを参照することができる。 	片山、高橋亮
	多様な施設・機関における現場体験学習の共有(Cクラス)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケア演習プログラムでの地区踏査・ヒアリングを踏まえて作成した資料をもとに説明することができる。 ・自らの実習で地域特性を把握する上で、他の学生の取り組みを参照することができる。 	福岡
	多様な施設・機関における現場体験学習の共有(Dクラス)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケア演習プログラムでの地区踏査・ヒアリングを踏まえて作成した資料をもとに説明することができる。 ・自らの実習で地域特性を把握する上で、他の学生の取り組みを参照することができる。 	宮本
	多様な施設・機関における現場体験学習の共有(Eクラス)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケア演習プログラムでの地区踏査・ヒアリングを踏まえて作成した資料をもとに説明することができる。 ・自らの実習で地域特性を把握する上で、他の学生の取り組みを参照することができる。 	近藤
17 ┆ 20	教員の訪問指導 (学生の帰校日)(Aクラス)	<p>ソーシャルワーク実習 (9月7日～10月16日/一部学生は別日程)</p> <p>原則週に1回の教員指導(訪問指導1回以上、その他は帰校日指導)、(訪問指導は、学生、実習指導者、教員の実習関係三者での面接)。</p>	巻
	教員の訪問指導 (学生の帰校日)(Bクラス)	<p>ソーシャルワーク実習 (9月7日～10月16日/一部学生は別日程)</p> <p>原則週に1回の教員指導(訪問指導1回以上、その他は帰校日指導)、(訪問指導は、学生、実習指導者、教員の実習関係三者での面接)。</p>	片山、高橋亮
	教員の訪問指導	<p>ソーシャルワーク実習 (9月7日～10月16日/一部学</p>	福岡

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	(学生の帰校日)(Cクラス)	生は別日程) 原則週に1回の教員指導(訪問指導1回以上、その他は帰校日指導)、(訪問指導は、学生、実習指導者、教員の実習関係三者での面接)。	
	教員の訪問指導 (学生の帰校日)(Dクラス)	ソーシャルワーク実習 (9月7日～10月16日/一部学生は別日程) 原則週に1回の教員指導(訪問指導1回以上、その他は帰校日指導)、(訪問指導は、学生、実習指導者、教員の実習関係三者での面接)。	宮本
	教員の訪問指導 (学生の帰校日)(Eクラス)	ソーシャルワーク実習 (9月7日～10月16日/一部学生は別日程) 原則週に1回の教員指導(訪問指導1回以上、その他は帰校日指導)、(訪問指導は、学生、実習指導者、教員の実習関係三者での面接)。	近藤
21	実習後オリエンテーション/実習体験を踏まえた成果と課題の整理 (Aクラス)	・実習後の授業予定の説明。アンケート等。 ・実習報告会運営委員を選出できる。 ・実習機関への提出物・礼状の発送状況が説明できる。 ・実習体験・ディレンマ体験の振り返りと整理。 ・実習報告会・報告書指導スケジュール確認。	巻
	実習後オリエンテーション/実習体験を踏まえた成果と課題の整理 (Bクラス)	・実習後の授業予定の説明。アンケート等。 ・実習報告会運営委員を選出できる。 ・実習機関への提出物・礼状の発送状況が説明できる。 ・実習体験・ディレンマ体験の振り返りと整理。 ・実習報告会・報告書指導スケジュール確認。	片山、高橋亮
	実習後オリエンテーション/実習体験を踏まえた成果と課題の整理 (Cクラス)	・実習後の授業予定の説明。アンケート等。 ・実習報告会運営委員を選出できる。 ・実習機関への提出物・礼状の発送状況が説明できる。 ・実習体験・ディレンマ体験の振り返りと整理。 ・実習報告会・報告書指導スケジュール確認。	福間
	実習後オリエンテーション/実習体験を踏まえた成果と課題の整理 (Dクラス)	・実習後の授業予定の説明。アンケート等。 ・実習報告会運営委員を選出できる。 ・実習機関への提出物・礼状の発送状況が説明できる。 ・実習体験・ディレンマ体験の振り返りと整理。 ・実習報告会・報告書指導スケジュール確認。	宮本
	実習後オリエンテーション/実習体験を踏まえた成果と課題の整理 (Eクラス)	・実習後の授業予定の説明。アンケート等。 ・実習報告会運営委員を選出できる。 ・実習機関への提出物・礼状の発送状況が説明できる。 ・実習体験・ディレンマ体験の振り返りと整理。 ・実習報告会・報告書指導スケジュール確認。	近藤
22) 24	実習体験を踏まえた成果と課題の整理 (Aクラス)	・実習体験や実習記録を踏まえ、実習体験の成果と課題を整理することができる。 ・効果的なプレゼンテーション方法を検討することができる。	巻
	実習体験を踏まえた成果と課題の整理 (Bクラス)	・実習体験や実習記録を踏まえ、実習体験の成果と課題を整理することができる。 ・効果的なプレゼンテーション方法を検討することができる。	片山、高橋亮
	実習体験を踏まえた成果と課題の整理 (Cクラス)	・実習体験や実習記録を踏まえ、実習体験の成果と課題を整理することができる。 ・効果的なプレゼンテーション方法を検討することができる。	福間
	実習体験を踏まえた成果と課題の整理 (Dクラス)	・実習体験や実習記録を踏まえ、実習体験の成果と課題を整理することができる。	宮本

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		・効果的なプレゼンテーション方法を検討することができる。	
	実習体験を踏まえた成果と課題の整理 ・ ・ (Eクラス)	・実習体験や実習記録を踏まえ、実習体験の成果と課題を整理することができる。 ・効果的なプレゼンテーション方法を検討することができる。	近藤
25	ソーシャルワーク実習報告会(全体会)	・実習生グループによるソーシャルワーク実習報告。 ・他のグループの発表に対し適切な質問を行い、自らの考えを述べることができる。	片山、巻、高橋亮、福間、宮本、近藤
26	ソーシャルワーク実習報告会(意見交換会)(Aクラス)	・実習生・実習指導者・教員の実習三者によるソーシャルワーク実習及び実習報告の振り返りとまとめ。	巻
	ソーシャルワーク実習報告会(意見交換会)(Bクラス)	・実習生グループによるソーシャルワーク実習報告。 ・他のグループの発表に対し適切な質問を行い、自らの考えを述べることができる。 ・実習生・実習指導者・教員の実習三者によるソーシャルワーク実習及び実習報告の振り返りとまとめ。	片山、高橋亮
	ソーシャルワーク実習報告会(意見交換会)(Cクラス)	・実習生グループによるソーシャルワーク実習報告。 ・他のグループの発表に対し適切な質問を行い、自らの考えを述べることができる。 ・実習生・実習指導者・教員の実習三者によるソーシャルワーク実習及び実習報告の振り返りとまとめ。	福間
	ソーシャルワーク実習報告会(意見交換会)(Dクラス)	・実習生グループによるソーシャルワーク実習報告。 ・他のグループの発表に対し適切な質問を行い、自らの考えを述べることができる。 ・実習生・実習指導者・教員の実習三者によるソーシャルワーク実習及び実習報告の振り返りとまとめ。	宮本
	ソーシャルワーク実習報告会(意見交換会)(Eクラス)	・実習生グループによるソーシャルワーク実習報告。 ・他のグループの発表に対し適切な質問を行い、自らの考えを述べることができる。 ・実習生・実習指導者・教員の実習三者によるソーシャルワーク実習及び実習報告の振り返りとまとめ。	近藤
27 { 29	実習報告書作成指導 ・ ・ とグループ学習のまとめ(Aクラス)	・自己評価表実習評価表を基に省察ができる。 ・記録物(実習日誌、学生用訪問・帰校日指導記録)を担当教員に示し、確認を得ることができる。 ・教員の指導を受け、実習報告書を作成することができる(教員の最終チェックを受ける)。 ・実習報告書の実習施設・機関への送付方法が説明できる。	巻
	実習報告書作成指導 ・ ・ とグループ学習のまとめ(Bクラス)	・自己評価表実習評価表を基に省察ができる。 ・記録物(実習日誌、学生用訪問・帰校日指導記録)を担当教員に示し、確認を得ることができる。 ・教員の指導を受け、実習報告書を作成することができる(教員の最終チェックを受ける)。 ・実習報告書の実習施設・機関への送付方法が説明できる。	片山、高橋亮
	実習報告書作成指導 ・ ・ とグループ学習のまとめ(Cクラス)	・自己評価表実習評価表を基に省察ができる。 ・記録物(実習日誌、学生用訪問・帰校日指導記録)を担当教員に示し、確認を得ることができる。 ・教員の指導を受け、実習報告書を作成することができる(教員の最終チェックを受ける)。 ・実習報告書の実習施設・機関への送付方法が説明できる。	福間
	実習報告書作成指導 ・ ・ とグループ学習のまとめ(Dクラス)	・自己評価表実習評価表を基に省察ができる。 ・記録物(実習日誌、学生用訪問・帰校日指導記録)を担当教員に示し、確認を得ることができる。 ・教員の指導を受け、実習報告書を作成することができる(教員の最終チェックを受ける)。 ・実習報告書の実習施設・機関への送付方法が説明で	宮本

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		きる。	
	実習報告書作成指導 . . . とグループ学習のまとめ(Eクラス)	・自己評価表実習評価表を基に省察ができる。 ・記録物(実習日誌、学生用訪問・帰校日指導記録)を担当教員に示し、確認を得ることができる。 ・教員の指導を受け、実習報告書を作成することができる(教員の最終チェックを受ける)。 ・実習報告書の実習施設・機関への送付方法が説明できる。	近藤
30	ソーシャルワーク実習指導のまとめ	・ソーシャルワーク専門職である社会福祉士が取り組む実践課題に対する自らの考えを述べるができる。 ・自らが獲得した人権感覚と実践力が説明できる。 授業評価アンケート。	巻、片山

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

○ソーシャルワーク実習 とソーシャルワーク実習指導 は連動科目のため成績評価も原則連動する。(実習評価「1」だが実習指導の評価基準を満たす場合除く)。例)「実習報告書」が未提出の場合は、ソーシャルワーク実習 の評価は不可。など

1. ソーシャルワーク実習の評価基準

- 1)実習評価(実習施設・機関による実習評価票総合評価により、下記の評価とする) 50点
「4」50点、「3.5」45点、「3」40点、「2.5」35点、「2」30点、「1.5」25点、「1」0点(「1」の場合は不合格)
- 2)実習日誌・事例研究等評価(実習報告書が未提出の場合は、0点とする) 40点
- 3)実習評価表・自己評価用(学生による実習評価表自己評価)に対する評価 10点

2. ソーシャルワーク実習指導 評価

- 1)グループ参加態度 10点
- 2)OSCE 40点
- 3)記録物50点(すべての記録物が提出されていない場合は0点とする)

3. ソーシャルワーク実習 前評価

- 1)実習中間打ち合わせ会前
 - (1)提出物:期間内に提出を指示されたすべての記録物・課題の提出。
 - (2)社会福祉士OSCE:合格基準 3試験項目の得点が各々6割以上。(OSCE不合格者には再チャレンジの機会を設定する。)
 - (3)出席状況:7割以上の出席
- 2)前期終了時
 - (1)出席状況
ソーシャルワーク実習指導 (前期期間中の出席状況を評価)7割以上
ソーシャルワーク演習 (前期期間中の出席状況を評価)7割以上
 - (2)期間内に提出を指示されたすべての記録物・課題の提出。
- 3)(対象:編入3年生で本科目を履修する学生)CBT:合格基準6割以上。不合格者には再チャレンジの機会を設定する。
- 4)(対象:ケア・マネジメントコースの該当者)CBT再試験:合格基準6割以上。
基準を満たさない場合は、実習配属中止とする。

【教科書】

『社会福祉実習要綱』北海道医療大学看護福祉学部福祉マネジメント学科

【参考書】

必要に応じて提示する。

【備考】

1. 社会福祉士国家試験受験資格取得のための「ソーシャルワーク実習指導」に該当する。
2. 教職課程(福祉)では、教科に関する科目の「社会福祉総合実習(社会福祉援助実習及び社会福祉施設等における介護実習を含む。)」に該当する。
3. GoogleClassroomを利用して実習配属候補施設・機関等に関する情報の事前提示、学習課題の提示などを行う。

【学修の準備】

1. 授業範囲について専門用語等を調べ、授業で紹介された用語の復習を行う。(予習・復習60分)
2. 基本実習プログラムの「学生に求める事前学習」の内容等について調べておくこと。(グループ:予習30分)
3. グループ学習の課題についてプレゼンテーションまたは質問ができるようにしておく。(グループ:予習30分)
4. 授業内容や社会で起きている事象・ニュースについて、調べまとめておくこと。(予習・復習60分)

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2: 福祉専門職に必要な知識・技術を修得し、健康や生活に関する問題に対して、適切かつ柔軟に判断し解決できる学術的・実践的能力を身につけている。

DP3: 社会環境の変化や保健・医療・福祉の新たなニーズに対応できるよう自己研鑽し、自らの専門領域において自律的・創造的に実践する能力を身につけている。

【実務経験】

巻 康弘(社会福祉士)、福間 麻紀(社会福祉士)、宮本 雅央(社会福祉士・精神保健福祉士)、近藤 尚也(社会福祉士)、片山 寛信(社会福祉士)

【実務経験を活かした教育内容】

社会福祉施設・機関、医療機関でのソーシャルワーカー・社会福祉士等としての、実践経験を通じて得た、価値・知識・技術・態度などを活用し、実践的な教育を行う。